

カタツムリ・ナメクジ駆除剤

メタルデヒド水和剤（フロアブル）

農林水産省登録 第16688号

性 状：白色水和性粘稠懸濁液体

毒 性：劇物

有効年限：3年

包 装：500ml瓶×20

マイキラ[®]

有効成分：メタルデヒド…………… 30.0%

その他成分：水、界面活性剤等…………… 70.0%

特 長

マイキラ[®]は、サンケイ化学㈱の登録商標です。

- 従来にない液体のナメクジ・カタツムリ防除剤です。
従来の粒剤タイプと異なり、水で希釈して散布する薬剤です。一度に広い面積を隙間なく処理できます。（特に、立体的な面にも処理できるので効果的）
- 接触毒作用に優れるので殺貝力が強く、即効的に作用します。
薬剤に触れると速やかに効果を発揮し、活動が停止します。
- ナメクジ・カタツムリの種類に関係なく有効です。
これまで効果が確認されたナメクジ・カタツムリの種類

ウスカワマイマイ、アフリカマイマイ、オカモノアラガイ、オオクビキレガイ、アシヒダナメクジ、コウラナメクジ、フタスジナメクジ、チャコウラナメクジ、ノハラナメクジ

適用病害虫名および使用方法

作物名	適用場所	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタルデヒドを含む農薬の総使用回数
みかん	—	ナメクジ類 カタツムリ類	200倍	200～700 ℓ/10a	収穫30日 前まで	3回以内	散布	散布は3回以内、 散布以外の 総使用回数は 定められていない
レタス				100～300 ℓ/10a	収穫14日 前まで			
作物名	適用場所	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタルデヒドを含む農薬の総使用回数
花き類 観葉植物	花き類・観葉 植物栽培温室 等の生息地	ナメクジ類 カタツムリ類	100～200 倍	—	—	—	散布	—
ナメクジ類、カ タツムリ類が加 害する農作物等	ほ場周辺雑草地 の生息地						作物にかか らないように 土壌表面 処理する	

使用上の注意事項

- 使用前によく振ってから使用してください。
- ほ場周辺雑草地の生息地を対象として使用する場合、圃場周辺の雑草地に散布し、作物に直接散布しないよう又、ドリフトに注意して使用してください。

安全使用上の注意事項

- 誤飲などのないよう注意してください。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とし、うがいをするとともに洗眼をしてください。
散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。
使用後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼をしてください。

技術情報

●上手な使い方



- 使用前によく振ってからご使用ください。
- ナメクジ類、カタツムリ類は夕方から朝にかけて活動しますので、活動を開始する夕方の散布をおすすめします。
- ほ場周辺雑草地の生息地に使用する場合、ナメクジ類、カタツムリ類は雑草の間、石の下や敷きわらの下など暗く湿度の高い場所を好んで生息しますのでそれらの場所に散布すると効果的です。その際、作物にかからないよう十分に注意してください。

●レタス栽培でのナメクジ類・カタツムリ類の被害と防除方法

レタスでの被害

ナメクジ類

- 作物への直接加害（摂食量は少ない）
- 徘徊痕による被害
- 個体自体が作物体に侵入

カタツムリ類

- 作物への直接加害（摂食量が多い）

土手部分はナメクリーン※でほ場への侵入防止！



ほ場内はマイキラーで侵入個体を一網打尽！

※ナメクリーンはサンケイ化学(株)が開発したナメクジ類、カタツムリ類防除剤で、これらの害虫を誘引して防除する誘殺剤(ベイト剤)です。(右写真)

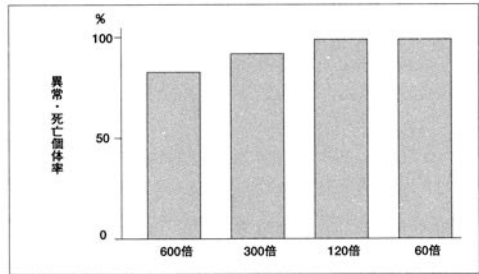


マイキラーの作用性

マイキラーは接触毒作用により、即効的で高い殺虫効果を示します。

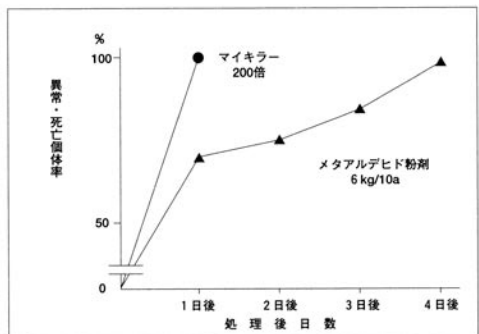
① 虫体に直接処理した場合の効果

供試虫：コウラナメクジ成体
処理法：所定濃度の薬液を腹部と背面にマイクロ
 ディスペンサーで5μℓ/1頭滴下。
調査：24時間後に異常・死亡個体数を調査。



② マイキラーの即効性

供試虫：アシヒダナメクジ
処理法：27cm×20cm、深さ10cmのタッパーに、
 土壌を1cmつめ、供試虫を放飼後、マイ
 キラーを小型スプレーで散布。粉剤はミ
 ゼットダスターで散布。
調査：所定の日数経過後、異常・死亡個体数を
 調査。



③ 処理面を徘徊した場合の効果

供試虫：ウスカワマイマイ
処理法：マイキラーを噴霧器で200ℓ/10a散布。
 (粉剤は手まき) 散布後ポット植ゼラニ
 ウムを試験区の中央部に置き、ポットか
 ら少しはなれた地表面にマイマイを放飼
 した。
調査：5日後に異常・死亡個体数とゼラニウム
 の被害葉数を調査。

